



令和4年度 第4号
常磐野小学校 校長室だより
令和4年7月1日発行 文責 清川 秀一



「学力ってどんな力」



校区にある嵯峨野高等学校は、SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）に指定され、探究活動に力を入れておられます。先日、その発表会を参観させていただきました。探究の時間に自分が興味あるテーマを決め、疑問に思ったことを実験や調査を行い、研究した成果を、Ipad を駆使しながら英語で発表していました。発表会には留学生の方などが参加し、英語で質問をされたことに、英語で回答している姿を見て、素晴らしい取り組みをされているなど感心しました。大学受験には直接関係のないことかもしれませんが、

大学に入ってから、また社会に出てからは大きな力となるだろうと思いました。

また、「学力」＝「受験を突破する力」とはならないのではないかと、この探究の時間を参観して強く感じました。では、「学力」とは何でしょう。現在の学習指導要領では、「資質・能力」という言葉に置き換えられ、「資質・能力」を伸ばしていくことを目標としています。

では、どのような資質・能力が今後の世の中で必要かということですが、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」などがあげられます。



様々な資質・能力がある中で、今年度常磐野小学校では育成したい「資質・能力」として、「情報を整理・分析し、考えを伝え合う力」を取り上げました。一人1台の端末が入り、教室にしながら一人一人が様々な情報を入手できるようになりました。また、今までは言葉で発表するか、手で書くかをして、考えを発表していましたが、ロイロノートなどのアプリを使って伝え合うこともできるようになりました。普段の授業の中で、GIGA 端末の活用を進めているところですが、もちろんノートや黒板を使用しての学習は基本となるものですので、そこに新しい文房具としてコンピュータが入ってきたと考えてください。みんなが集めた情報や、考えたことを出し合い、考察し、伝え合う姿をイメージして学習の流れを考えています。

昔から学力というと知識や理解の部分が大事にされていたように思いますが、学校で学ぶ力は「社会を生きていくための力」であることは、間違いありません。今の学校では「教科を教える」から「教科で教える」という考え方にシフトしていくことが求められていますので、先生方の力と知恵を合わせて研究していきたいと考えています。ご家庭においても夏休みの自由研究などで探究活動をしてみてはいかがでしょうか。

